

一般社団法人 鹿角青年会議所

2022年度 理事長所信

スローガン

日に新たに

・はじめに

2020年初頭に始まった新型コロナウイルス感染拡大による世界的な混乱は、ワクチン供給が進んだ今尚、世界各地に深い爪痕を残し続けております。日本国内においても15,000人以上の感染死亡者、観光や飲食業を中心に凄まじい打撃を受け、2020年度の実質GDPは前年度比4.6%減と、リーマンショック時を超えて戦後最悪を更新しました。これらの状況に起因して、国内でも新たなライフスタイルの確立を目指し、大手企業をはじめリモートワーク環境の整備やDX推進によるコストの最適化に加えて、世界中で脱炭素社会へ向けた取り組みが一層強化されることから、変化の波はこれまで以上に容赦なく地方にも訪れ、我々はかつてない厳しい環境へ晒されることとなります。

このままで良いのでしょうか。もっと我々にできることはないのでしょうか。普段の経済活動の枠組みを超え、我々が地域と共に生きていくために学び、育つための機会提供の場として、また、地域に変革の種を蒔く組織として、青年会議所を大いに活用してほしい。そんな思いから、2022年度の理事長職をお預かりする決意をしました。

・会員の拡大と資質向上を目指して

全国的に会員の減少が続く中、鹿角青年会議所もその例外ではなくメンバーの減少に頭を悩まされております。また、入会のためのハードルが高く、入会後の時間と経済的負担に二の足を踏んでいる方が多いのも事実です。2022年度は過去最少人数でのスタートとなり、会員拡大の成功なくして次年度以降の存続はありえません。岐路に立たされている今、新規会員数15人を必達目標とし、各種事業の見直しや入会後の研修、新規会員含む対外事業への積極的な周知と参加を促すことで、組織への帰属意識と満足度を高め、JCの輪を内外に広げてまいります。

・青少年の育成に関して

職業や働き方の多様化、それに伴う価値観の変化によって、大人のみならず次世代を担う子供たちを取り巻く環境も変わり続けています。さらに、コロナ禍を通して子供たちの教育環境の変化や各種行事の中止により、学び遊ぶ機会の減少が叫ばれております。変化の時代を生き抜く力を身に付け、いかなる時でも能動的に行動できる人財育成の一環として、また

子供たちへの教育のセカンドオピニオンの一つとして役立てるよう我々も運動をつづけ、明るい豊かな社会へ向けての下支えを継続します。

・まちづくり

近年、観光地域づくり法人への注目度が高まり、国内では現在300弱の団体が登録を済ませております。地域の稼ぐ力を引き出し、関係各所と連携を取りつつ観光資源を活かすやり方は、青年会議所の運動と通ずるものがあると考えます。我々も大湯環状列石や花輪ばやし、大日堂舞楽など地域が誇る文化や魅力を再認識する一方、依然解決の見えない地域の抱える課題に目を背けることなく、地域活性化に大きく寄与できるよう今一度まちづくりに対して真摯に取り組んでまいります。

・結びに

「現状維持は後退の始まり」と故松下幸之助氏の金言にもあるように、青年会議所全体も従来の運営、活動内容を見直すべき時代が来たのだと私は思っております。持続可能な組織として常に運動活動を振り返り、時代に則した組織運営や事業展開をおこない、会員一人ひとりの成長をもって地域に貢献しつづけることで、明るい豊かな社会を実現させます。臆することなく、変わっていきましょう。